

# 川瀬裕子，酒井恵真，笹岡征雄先生の 退職記念号の発刊に寄せて

人文学部長

奥谷浩一

この度、『人文学会紀要』第87号が無事発刊の運びとなりました。今号は、昨年3月に札幌学院大学を定年退職されて本学名誉教授となられた川瀬裕子，酒井恵真，笹岡征雄の三先生の退職記念号となります。その発行を心から慶賀申し上げますとともに，長年にわたって本学にご貢献いただいた三先生に衷心よりご苦勞様でしたと申し上げます。また，お忙しいなか，本号のために多くの玉稿を寄せられた諸先生方のご苦勞に心から敬意を表します。

今回退職記念号の対象となった三人の先生方については，今号の経歴と業績一覧をご覧くださいと思いますが，ここで簡単にご紹介申し上げます。

川瀬裕子先生は，札幌短期大学時代の1972年に本学園に赴任され，勤続37年の長きにわたって英語，アメリカ文学などを講じられて，本学に貢献されました。私事を申し上げることにありますが，私が大学院博士課程に在学中に，現桜美林大学の坂井昭宏先生の仲介でパーティがあり，川瀬先生と初めてお会いしました。その時のことは今でも思い出として残っています。

酒井恵真先生は，札幌大学経済学部助手をへて，1977年に本学人文学部の開設と同時に本学に着任され，以来32年にわたって社会学，地域社会学，社会調査法，現代社会論などを本学で講義されました。酒井先生は，教育・研究以外に学内行政の面でも活躍され，人文学部長，大学常務理事などを歴任されて，その功績には大きいものがあります。

笹岡征雄先生は，北星男子高をへて，1967年に札幌短期大学助手として本学に赴任されて以来，スポーツ，運動処方論などを担当され，42年の長きにわたって本学に勤務されました。笹岡先生は，とりわけ女子マラソンの先駆者および本学駅伝チームの指導者として知られ，文字通り札幌学院大学の「走る広告塔」として，本学の名前を全国に広げる役割を果たされたという面でも，大学に対する貢献度はきわめて高いと言えるべきでしょう。

言うまでもなく，18歳人口の激減，大学全入時代の到来を迎え，地方の弱小私立大学はそのあおりをまともに受けつつあり，そのなかで大学の生き残りをかけた競争が開始されています。こうした情勢のなかで，本学もまた大学サバイバルに成功するかどうかが問われています。こうした厳しい時代だからこそ，本学教職員が丸となって大学サバイバルのために奮闘しなければならぬ時代が来ています。今回退職された諸先生には，そんな大学を見守るだけでなく，学外から何かと私たちにご支援・ご鞭撻をいただきたく，心よりお願い申し上げます。

今回定年退職された三人の先生方におかれては，ますますご壮健にて定年後の第二の人生を楽しめますように，そしてまた折があれば札幌学院大学にさまざまな側面から援護射撃をいただけますように，心よりお願い申し上げます。